



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

## 知事 の学校訪問！

知事が、三重の子どもたちの様子や授業改善の取組を見たり、学校現場や地域の学習ボランティアの生の声を聴いたりして、今後の教育行政の推進に生かしていくため、鈴鹿市立明生小学校を訪問しました。

### ●●●「鈴鹿市立明生小学校」の取組の特徴 ●●●

校長が学力向上の方針を明確にし、県教育委員会が重点的に取り組んでいる全国学力・学習状況調査や「みえスタディ・チェック」などの活用、授業の進め方の統一（めあての提示や振り返る活動の設定）、校長の見回りによる授業へのアドバイス、「三重の学-Viva!! セット（まなびばセット）」の活用、アドバイザーの活用、教科に特化した研修などに力を入れて取組を進めている学校です。

また、学校独自に次のような取組も進めています。



#### ● 授業スタイルの統一

生活に関連させた課題や子どもが解きたくなる課題の設定、児童の考えを引き出す発問の工夫、自力解決の時間とペアやグループでの話し合いの時間の設定など

#### ● 全学年でのノート指導の統一

学年が変わったり、教師が変わったりしても継続したノート指導による連続した学びの効果に期待

#### ● 学習ボランティアとの協働（コミュニティ・スクール）

授業支援、読み聞かせなど、地域の学習支援ボランティアの積極的な活動

#### ● 「明生ノート」（3年生以上）による自主学習の取組

毎日1ページ以上の児童自身が決めた課題への取組による主体的に学ぶ学習の育成

#### ● 保護者と連携した家庭学習の習慣化（「家庭学習点検表」の活用）

### ●●●意見交換より ●●●

**知事**：子どもたちの理解度を高めるために心がけていることは何ですか。

**教諭**：授業では、子どもたちのつぶやきをよく拾い、個別にも指導しています。また、子どもたちが教え合うこと自体が勉強になっていると思います。このことは、自分の言葉で解き方を説明したり、ねばり強く考えたりする力につながっていると考えています。

**知事**：学校だけでなく、家庭での勉強は大切であり、保護者の協力が必要となるが、保護者の協力に温度差がある場合は、どうしていますか。

**校長**：学校だよりにおける啓発を工夫しています。「家庭学習点検表」を各学年ごとに提出率、保護者の関心度などを矢印で表したり数値化したりして一覧表にしています。この結果を公表することや、勉強以外のちょっとしたやり取りを大事にすることにより、保護者や教職員の現状理解も深まり、子どもも切磋琢磨するようになってきています。

**知事**：小学校は校長がリーダーとして取組方針を明確にし、その取組ができているかどうかを「見える化」により確認することが重要だと改めて感じました。「毎日プリント」やホワイトボードの活用など具体的な取組もよいし、子どもたち同士が切磋琢磨することもよいと思いました。みえスタディ・チェックやワークシートなど、ツールは揃ってきているので、それを活用していくことが大切であり、その点を市町教育委員会と連携して後押しをしていきますので、現場の先生はいい取組は、謙虚かつ積極的にどんどん取り入れていってほしいと思います。

# ◆連載◆ 全国学力・学習状況調査の結果から見てきたもの

## Vol.4 全国学力・学習状況調査の結果を学習指導に生かして

本県では、小学校・国語、特にB問題に大きな課題が見られます。この課題を克服するための視点を盛り込んだ県が作成したワークシートを、ぜひ授業等で活用してください。

### ●ポイント1

### 小学校・国語B問題で見られた課題はこの3つ！

#### 1 質問の意図を捉え、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる

- 問題1二：質問の意図を捉える・・・・・・・・・・平均正答率 56.4%（全国 60.2%）

#### 2 目的に応じて必要な情報を取り出し、内容を分類したり関係付けたりして整理して読む

- 問題2一：最初にもった疑問を、付せんにかかれた内容から捉える  
・・・・・・・・・・平均正答率 67.6%（全国 71.9%）
- 問題2三：課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む  
・・・・・・・・・・平均正答率 62.3%（全国 66.0%）

#### 3 課題を解決するために、課題に対する解答や結果の予想を立て、どのような方法で必要な情報を収集するとよいかなど、解決のための見通しをもって本や文章を活用する

- 問題3三：二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く  
・・・・・・・・・・平均正答率 43.1%（全国 48.1%）

### ●ポイント2

### 学習指導に、ぜひ、ワークシートの活用を！

与えられた文章や資料を活用して自分の考えを書く記述問題や条件がある記述問題に取り組むことにより、思考力や表現力が身に付きます。以下は、本県の子どものための課題を踏まえて作成したワークシートです。

【例】与えられた資料を整理し、必要な情報を選択して、自分の考えを記述する問題

【問】A町の人口が今後どのように変化していくと考えられるか、資料1～3をもとに、あなたの考えをまとめましょう。

【条件1】  
二つ以上の資料にもとづいて、自分の考えを明らかにして書く

【条件2】  
80字以上、100字以内

資料1は「棒グラフ」！

資料2は「円グラフ」！

資料3は「文章」！

◆ ワークシートは、小中学校教育課のホームページ「先生のページ」に掲載しています。

## 「子どもの姿が変わる国語の授業改善とは…」

平成26年度第1回授業改善（小学校国語）の充実を図る研修会 文部科学省 水戸部調査官講演より

- 今、子どもたちに必要な力とは？
  - ・ 自らの課題解決に向けて主体的に読む力
  - ・ 自分がなぜそう読んだのかを論理的に説明したり、互いの解釈の違いを認め合ったりする力
  - ・ 自ら本に手を伸ばしたり、必要な情報を検索して得たりする力
- 今までの指導方法をどのように改善すれば、子どもたちの主体的な思考・判断が生かされ課題解決していく授業になるの？

- この単元で付けたい力を見極める
- 付けたい力にぴったりの言語活動を選ぶ → 言語活動の種類や特徴の分析が重要な教材研究
- 見通しをもち、課題を解決していく学習の過程を重視
- 「大好き！」「はてな？」「伝えたい！」を生かす → 実生活に生きる、主体的な思考・判断を伴う学びを

### 具体的な実践事例（例：小学校中学年）

#### ● 実践事例①「変身ボックスをつくらう」

— 付けたい力（指導事項） —

- ・ 場面の移り変わりに注意しながら登場人物の気持ちの変化について、叙述をもとに想像して読む

変身ボックスをつくるために子どもたちは何度も作品を読むので、話の内容を子どもたちが主体的につかむことができる！



#### ● 実践事例②「しょうかい人形をつくらう」

— 付けたい力（指導事項） —

- ・ 場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格について、叙述をもとに想像して読む

大好きな登場人物の行動や会話、その人らしいところをまとめて紹介するので一つの叙述ではなく、複数の叙述から考えるようになる！



※この他にも、「自動車図鑑」、「南吉の小窓」「お話ガイドボックス」等が紹介されました。

### 授業研究を中心とした校内研修の活性化

## 1年間の「振り返り」と「再構成」を！

子どもたちの学力向上を図るためには、組織的・計画的な授業研究に取り組むことで、教員一人ひとりの授業力を高め、授業改善につなげることが大切です。各学校における本年度の授業研究はいかがだったでしょうか。1年間の取組を振り返るとともに、次年度の授業研究をさらに充実させるための再構成を行いましょう。



### ～授業研究のポイント～

- 研究テーマ…客観的なデータ分析から学校の現状を把握し設定
- 事前検討…指導案検討をすすめる中で「参観の視点」を共有
- 研究授業…「参観の視点」をもとに、子どもの学びを見抜く
- 事後検討…討議の柱の**焦点化**、子どもの学びを根拠にした語り合い、ワークショップの導入、内容の**視覚化**等
- 再構成…授業研究での学びを**自分化**し、日々の授業改善へ

「焦点化」「視覚化」「自分化」をキーワードに！

次年度に向けて、今、取り組むべきこと…

- 研究テーマの検証！
- 成果と課題の共有！
- 次年度の研究構想！



# 先輩

～学力向上アドバイザー～

## からの メッセージ

### ある学校の取組を通して

私は、定期的に学力の定着状況の振り返りを行うツールとして、全国学力・学習状況調査、「みえスタディ・チェック」、ワークシートをしっかりと活用し、授業改善に生かしていくことを各学校にお伝えしています。

これを受けて、ある小学校では「みえスタディ・チェック」を活用した次のような取組が行われています。

11月実施の4年生の算数に、一組の三角定規では作ることができない角度を選ぶ問題が出されました。この問題の正答率が20%台だったということで、算数の時間にもう一度この問題に挑戦しました。まず、三角定規二つの組み合わせには、二つを「合わせる」と「重ねる」とがあること、「合わせる」とときには足し算で、「重ねる」とときには引き算で表せることを確認しました。次に子どもたちは、色紙でつくられた三角定規で問題の選択肢に示された角度をつかってノートへ貼っていきました。その結果、どの子も組み合わせでできる角度とできない角度を判断し、100°（度）の角度だけはできないことに気づき説明できるようになりました。

校内研修会では、この事例をもとに、基礎的・基本的な学習内容だけでなく、それらを活用する内容まで学習させることの大切さが話し合われました。

このようにして、学校全体で組織的な授業改善に取り組む学校が増えてきていることを実感するとともに、今後さらに各小中学校で学力向上のための効果的な取組が進められることを期待しています。

【学力向上アドバイザー 中西 辰彦】

## スマートフォン等の 利用実態に迫る！

### ●●●ケータイと子どもたちの心の関係を見直そう●●●

平成26年10月に県内の公立小中学校及び県立高等学校から抽出した児童生徒（11,799人）を対象に「スマートフォン等の使用に関する実態調査」を行った結果、ケータイ（携帯電話やスマートフォン）の所持率は、小学生39.9%、中学生60.9%、高校生99.1%でした。

また、校種が上がるにつれて、利用時間が増加しており、ケータイを所持する児童生徒のうち、1日3時間以上ケータイを利用する割合は、小学生7.8%、中学生27.7%、高校生49.5%で、ケータイを長時間利用している児童生徒は、自己肯定感が低い傾向が見られました。

児童生徒が、ケータイの適切な利用方法やルールについて主体的に考える機会を設けるなど、発達段階に応じた取組が必要です。

学校がある日のケータイ所有者の  
平均的な利用時間（校種別）

